

創立十五周年記念 「夢・未来を語る集い」 懐旧談・未来談満開

寒さ厳しい中にも、梅の花が一輪一輪と開く新春の1月22日、創立十五周年記念「夢・未来を語る集い」を奈良ロイヤルホテルにて開催しました。(来賓19名、会員62名の計81名参加)

来賓として、仲川げん奈良市長、奈良県からはくらし創造部佐野勝次長、景観・自然環境課坂野三輪子課長補佐、古都管理係鈴木誠係長、同山下琢弥主事、それにシニア自然大学校齋藤隆理事、ならコープ森宏之理事長、いこま棚田クラブ出口育宏代表、いこま宝の里磯貝猛代表、東京海上日動火災保険(株)奈良支店副田伸也次長、日本NPOセンター丸山佑介氏、奈良市立佐保台小学校荒木美久子校長、同校運営委員平井隆三氏、奈良市佐保川地区自治連合会金野秀一会長、ならテレビ放送(株)小池重二報道統括、作家・詩人寮美千子氏、ならまち通信社松永洋介氏、佐紀町西川菊次氏、歌姫町早川芳雄氏ら各界から19名もの皆様方にご臨席いただき、錦上花を添えていただきました。



鈴木会長は開会の辞として、「15年にわたる歩みを辿りつつ、今日を迎えることができたこと」への謝辞を述べたうえで、集いの意義を「新しい明日に向かって『夢・未来』を大いに語り合っていたきたい」と強調。さらに、「地域貢献活動にも積極的に取り組んでいきたい」などと抱負を語りました。

続いて、5名の来賓の方々から祝辞をいただきました。それぞれのお立場から、奈良・人と自然の会の今日に至る活動についての高い評価、そし

て経験豊富で多才な能力を持つシニア世代に対する期待感が溢れたお言葉をいただきました。

とくに、「行政との連携・信頼関係」「市民の福祉と健康な生活への支援活動」「歴史的風土・古都保存」「明日の奈良を元気に」等々が異口同音に語られていました。中でも、仲川げん奈良市長から



は「ならやまの活動を百歳ぐらいまで続ける意気込みで頑張ってください。知識と経験を持った元気なシニアが、地域の自然環境に対する関心を高め

ていく担い手として大いに期待しています。15年前に教えられた子供たちが、今は教える立場となっています。皆様の活動の種が芽をだし、次の世代にしっかりとつなげていくことを期待しています」と、力強い励ましのお言葉をいただき、会員一同感激を新たにしました。

続いて、顧問の川井秀夫さんに乾杯の発声をお願いし、歓談に入りました。

会場正面右側のスクリーンに映し出される「15年の歩み」スライドショーの前では、草創期に忍辱山国有林の間伐作業で先駆的リーダーとしてご活躍された寺田正博さんが、当時の写真を感慨深げに見入っておられました。森林技術者としての熱意ある指導が、次世代に受け継がれ、今日のならやままでの景観整備と保全につながっています。

県景観・自然環境課の坂野課長補佐は、以前の風致景観課の時から今日まで、ご指導、ご配慮をいただけてきました。半世紀以上もの間、放置されて荒涼殺伐としていた里山林の景観整備を如何に進めていけば良いのか、大いに議論を重ねたものでした。そんな懐旧談に暫し花咲かせることができました。

最近入会された会員の皆さんからは、日本の原風景に近い情景に蘇ってきた時の流れを確認していただき、将来に向けての決意の程をお聴きすることができました。

歓談が進むにつれて、「夢・未来談義」も華やぎ深まると共に、素晴らしい「夢・未来ボード」が出来上がりました。感謝の念で一杯であります。